

【多摩丘陵・私の出会った生き物たち11】

<カラ混群>

桑原紀子

バードウォッチングが苦手です。視力が良くないのと、「ほらあそこあそこ」と言われてマゴマゴしている内に、鳥はさっさと飛んでいってしまい、双眼鏡には揺れる枝が写るばかり、という情けない体験を重ねています。

でも鳥が苦手な訳ではないのです。美しいさえずり、水中を泳ぐように群れで飛ぶ姿、木々の茂みに潜む気配、林の中で時折拾う小さな羽根など、手が届かない自由な生き物への憧れで、胸がときめきます。

こんな私でもたっぴりとバードウォッチングを楽しめる冬の季節の到来です。

木々はすっかり落葉し、まるで手品の種明かしするように、小鳥たちの姿をあらわにします。

茂みの中に隠れていた小鳥たちは、ちょっと困った風情で枝に止まっていたり、木々を渡ったりしています。周りの梢を見上げるだけで、ふんわりと小さな柔らかな姿が簡単に見つかります。

冬は小鳥がとても近くに感じられ、あの鳥はなんという名前だろう、何をしているのだろうと、興味が湧いてきます。

庭に7、8羽の群れがやって来ました。

ギーギーと呼び合いながら、小さなキツツキが杏の木に飛んできました。3羽もいます。白とこげ茶のだんだら模様、幹を素早く上り下りしたり、枝先に飛んでコンコンと鋭い嘴で突付きながら餌を探しています。コゲラです。ひと時もじっとせず、柿の木に飛んで一つ残っているしわしわの実をついたりもします。残りの5、6羽はメジロとシ



ジウカラです。コゲラが杏に戻ると、急いで柿の残りをつつきます。それぞれのさえずりが小さな音楽のように辺りの空気を震わせます。しばらくすると満足したのか、気まぐれなのか、群れは又いっせいに飛び去りました。

秋から冬にかけて、このように違う種の小鳥が群れになって行動するのを見かけます。カラ混群と呼ばれますが、コゲラ、メジロ、シジウカラ、エナガ、ヤマガラなどもカラ混群の顔ぶれです。

晴れた空高く、オオタカやハイタカが獲物を探して飛んでいます。にぎやかな混群は、敵の目をかく乱するための知恵なのかもしれません。

小鳥たちが身につけた不思議な、なんだか楽しい習性です。